

議会全員視察研修報告

葛城市議会

<日 程> 2026 年（令和 8 年）7 月 9 日（木）

<研修先> 美浜町運動公園陸上競技場、総合公園体育館（愛知県美浜町）

<参加者> 議会議員 12 名

増田議長 杉本副議長 福本議員 木村議員 薮本議員 速水議員 西川議員 梨本議員
吉村議員 奥本議員 川村議員 藤井本議員

<随行者> 吉田総務部長 中井こども未来創造部長 勝眞教育部長

◆ 研修内容 ◆

「スポーツを核としたまちづくり及びスポーツ施設の防災機能について」

<会 場> 美浜町運動公園陸上競技場、総合公園体育館（愛知県美浜町）

<参加者> 八谷充則美浜町長ほか町職員



〔講義概要〕

美浜町におけるスポーツ施設（運動公園陸上競技場および総合公園体育館）を視察し、平時における地域コミュニティ・スポーツ振興の拠点としての活用状況と、災害時における広域防災拠点・受援施設としての高度な運用計画について実地研修を行いました。

〔美浜町運動公園陸上競技場〕

- 施設全体にわたり車椅子等の利用に配慮した徹底的なバリアフリー化が施されている。
- 近隣の日本福祉大学の学生や他町からの予約も含め、高い頻度で共同利用されている。
- 海拔が低い地域特性を考慮し、競技場敷地全体が「かさ上げ（盛土）」されている。
- 駐車場は災害時の重要な防災施設（活動拠点等）として位置づけ整備される計画である。

〔総合公園体育館〕

- メインアリーナは広域的な「受援施設」に指定されており、愛知県の広域防災計画とも連動しながら、知多半島地域の防災拠点として機能する。資材の搬入動線なども含めて綿密に計算されている。また、民間企業等も巻き込んだ、実践的な防災訓練も重ねられている。
- 空調が完備されたサブアリーナは、災害時に津波等で命を落とされた方のご遺体安置所としての活用まで想定されており、実際の動線やご遺体から出る水分の防水シートの準備もなされている。
- 国から防災の専門家を招請し、その指導のもとで実効性の高い具体的な防災・受援計画が策定されている。

■■議員の所感■■

美浜町のスポーツ施設を拝見し、平時の市民や学生スポーツの振興を図る一方で、防災の専門家の指導により、有事の「受援」まで見据えた、きわめて現実的かつ冷徹な防災計画が組み込まれている点に強い感銘を受けました。とくに、総合体育館のサブアリーナを空調設備と連動させて遺体安置所として想定する備えや資材の搬入計画は、形だけの防災計画にとどまらない本気の危機管理意識の表れだと感じました。葛城市においても、具体的でリアルな想定（数量）の積み上げが必要と考える。

今回の研修では運動公園と防災機能が同時に学べる貴重な研修になった。駅からの導線の確保、バリアフリーの通路の整備、施設の役割が防災時の時のことも考えしっかり整備されている。大学関係者、陸上競技、イベント参加者がスポーツと交流を通じて誰もが主役になれる場所をコンセプトにみんなでこの運動公園を造られていると感じた。葛城市も新町公園の整備の際にはこのようなしっかりと計画性、安全性、コンセプト、災害時の時も考え取組む必要があると感じた。

防災の機能については、元自衛官の職員の説明に言葉が出ないくらい驚かされた。災害時の運動公園の役割分担の明確性、県とのしっかりとした連携、受援施設の物資のレイアウト、人員の配置が決まっておらず全体的にしっかりと計画性がありわかりやすかった。また、現時点で足りない施設も搬入のトラックの事も考え、道路整備を県と共同で計画までされている。

葛城市として、受援施設も大事だが、しっかりとした計画性を考えたうえで施設の導入を考える必要がある。これには災害時の専門家の意見や、美浜町のように元自衛官などの方を職員に採用し、早急に取り組むべきだと強く思う。

今回の研修を通じ、スポーツ施設は単なる運動施設ではなく、平時の健康づくりや交流促進に加え、災害時には地域を支える重要な防災拠点となり得ることを実感した。特に印象的であったのは、防災機能を「施設」だけで考えるのではなく、人員配置や受援体制、関係機関との連携まで含めて具体的に計画されていた点である。

中心的役割を担う「地域防災マネージャー」として任用された元自衛隊員の職員の方からは、実効性のある防災計画には専門的知識を持つ人材と、平時からの備えが不可欠であることを学んだ。

葛城市においても、今後発生が想定される大規模災害への対応力を高めるため、避難所運営や受援体制の明確化、防災を担う専門人材の確保について検討する必要がある。今回の視察内容を、地域防災力の向上に向けた政策提言につなげていきたい。

葛城市の調田坐一事尼古神社の宮司の方と知り合いで、葛城市にも来られたという八谷充則町長が歓迎下さった。スポーツ×健康、教育、福祉をコンセプトにしたまちづくりそしてスポーツ施設が災害時には物資の受け入れの為に受援施設に変わる「受援計画」が綿密に作成されている。また、美浜町では大災害時の遺体安置場所も定められていた。

市民が運動できる場を提供するとともに受援施設としても非常に考えられていると思った。防災の意識の高さに驚かされ葛城市の受援体制としての考えとして受援計画を綿密に考えていく必要があると考える。

- ・当該運動公園の整備に当たっては、スポーツ施設の整備に加え災害時の避難所、仮設住宅、物資集積等の機能を持つ施設として総合計画に明記されている。
- ・国、県から供給されるプッシュ型支援物資の内容が明確に把握されており、それに応じた受援施設の規模を確保されている。
- ・体育施設利用(日本福祉大学)、災害時協定(ドコモ・自衛隊)などが強みと感じた。

太平洋に面し南海トラフ地震を想定した美浜町の防災意識は非常に高く、防災計画から受援計画まで全ての突発的な質問に対しても即答できた上、数値化で出せるほど綿密に練られており、また産官学の連携の強みも含め、葛城市の防災意識の低さと甘さを痛感させられた。

特に、国からきていた美浜町の防災マネージャーの存在は大きく、葛城市においても、早急に防災マネージャーを要請する必要性を訴えてまいりたい。

美浜町運動公園陸上競技場は段階的に整備をされており、令和8年時点においては7つの工程の中で共用開始をされているのは4つであり、健康広場や防災施設については令和10年の予定であるとのことであった。スポーツを核とする背景とすれば日本福祉大学が美浜町に存在することが大きいと感じた。美浜町と日本福祉大学が共同でスポーツコミッションを設立し、イベントや大会・合宿等の誘致、人材育成や観光にも官学連携で取り組まれているところが成功の鍵となっている。防災にあってもスポーツ施設を防災機能施設に活用される想定をされており、既存の総合公園体育館の活用にあっては、受援組織を確立させ物資拠点を中心に遺体安置所やヘリ離発着や自衛隊の宿営地までも想定をされており、国及び県とも連携をし新物資システムB-PL0を令和7年より運用を開始される等、様々なケースの想定をした受援計画となっていた。

美浜町は「教育・子育て支援」と「スポーツ」に特に力を入れている。

美浜町運動公園陸上競技場、総合公園体育館、学校、保育所、近くに日本福祉大学、附属高校と連携し、スポーツを軸とし、観光、子育て、健康福祉、障がい福祉、合宿やスポーツ関連事業、若者の定住などまちの課題解決に積極的に取り組みされている。印象的な事業としては、子どもたちに英語教育と基礎体力を同時におこなう魅力的な活動だった。

防災拠点としての機能は素晴らしい計画を進めておられる。半島であるため、能登半島地震の教訓から受援計画をしっかりとたて、あらゆる想定を組み込み、訓練されている。平常時はスポーツ施設、災害時には物資集積拠点となる。

葛城市において、今議会から指摘している土地開発公社が先行取得してしまった場所は、具体的な計画が乏しい中で、執行された。美浜町は元自衛官が専属ではいり、地域の実情と合わせ協定、連携体制が綿密に示されたものになっている。

葛城市もこういった体制を一から構築していくことが重要だと思った。

「災害に強い葛城市」には未だ到底行きつかない。市民の税金を投入するからには日常の市民サービス向上のためと災害時の市民の命を守る体制は二重構造であるべきと私は思う。

美浜町に伺い、防災対応と物資集積拠点を別々の問題と考えるのではなく、国から県、県から町への支援体制を連動させながら災害対策を考えることの重要性が分かった。

なかでも、大規模災害時の想定死傷者数等を元に施設面積や動線を想定している点、自衛隊の救援活動を受援計画に落とし込んでいる点、県と町とで連携した訓練を行っている点については、非常に参考になった。

美浜町における防災の専門家である松本氏は、自衛隊出身職員という専門的な知見を有し、国・県の取組みと連動した防災体制の構築に貢献されていた。今、国において退役自衛官の再就職が議論されていることもあり、葛城市においても防災専門官としてそういった人材を獲得することも考えるべきかもしれない。

美浜町で学んだ知見を活かしながら、葛城市の防災について改めて見直す必要性を感じた。

今回の視察を通じて、平時から施設の多目的利用と防災機能を一体的に整備するフェイズフリーの考え方の重要性を改めて認識しました。

大規模災害時には、施設の規模だけではなく、支援物資や応援部隊を迅速かつ効率的に受け入れ、運用する体制づくりが重要です。葛城市においても、物資集積拠点の整備に加え、受援体制や運営マニュアルの整備、関係機関との連携強化など、防災力の向上を図る必要があると感じました。